

(14) 名前のない新聞 No.221 / 2021年1・2月号

## 『じゃんびんぐ・まうす』との対話

ポストコロナの新しい物語のために

おおえ まさのり



手作り製本の絵本『じゃんびんぐ・まうす』が40年の時を経て、よみがえった。松栄印刷所の榎田屋昭子さん（あの『アイ・アム・ヒッピー』の増補改訂版の刊行者）の熱い思いに誘われて、ポストコロナの新しい物語としてここにプレゼントできることになりました。

わたしたちは、人としての目覚め以来、何万年にも渡って、星降る夜ごとに、存在の不思議と向かい合い、問いつづけてきたものだ。生とは、死とは。在るとはどういうことかと。

問う〈わたし〉がいる。世界とは、問う〈わたし〉（精神・意識）の内にある他はなく、世界は〈わたし〉の夢見だといえる。宇宙が見ている夢をわたしが夢見ているのである。こうしてわたしたちは物語（夢）によって、物語（虚構）の中で生き、生かされている。だが神という大きな物語が消え去り、今わたしたちは〈なぜ、在るのか〉という不可能な問いの前に、たった一人で向かい合わざるをえなくなってしまった。

にもかかわらず、AIのもたらしつつある過剰な情報産業化社会の中で、そのことに気づくのは、はたと死を前にしたときのみである。死を突きつけるコロナ禍にもかかわらず、デジタル化に踊らされ、スマホで予約して、Go to キャンペーンに右往左往する姿は「ハーメルンの笛吹」の物語をほうふつとき

せるものがある。どこへ行こうというのだろうか。世界はどこにあるというのだろうか。とても世界がそんなところに在るとは思われない。

世界が〈わたし〉の夢見に他ならないからには、問われるべきは〈わたし〉の夢見であり、その夢を見ている〈わたし〉こそ問われるべきものである。

人という類がホモ・サピエンスになったその秘密は、およそ七万年前に起こった認知革命にあり、認知革命によって人類はホモ・サピエンス（賢いヒト）となった。それは「ないものを想像する力」であり、わたしたちは「ないものを想像する力」をもって物語を編み出し、社会を、文化を、このとほうもない文明を作り上げてきたとユヴァル・ノア・ハラリは言い、そして現実はその神話を変えること、つまり別の物語を語ることによって、変更可能なのだ。適切な条件下では、神話はあつという間に現実を変えることができる」（『サピエンス全史』）と。

そんなわたしたちが今ここにいる。問いを、今再び、〈わたし〉にこそ向けるべきである、〈存在するとはどういうことか〉と、星降る宇宙の中で。

ではそろそろ、あなたは『じゃんびんぐ・まうす』の旅に出る準備ができたろうか。『じゃんびんぐ・まうす』はネイティブ・ア

メリカンのシャイアン族に伝えられてきた、ヴィジョンを探求するヴィジョン・クエストや自己を捧げ尽くすサンダンスの儀式の意味を伝える物語である。

今やあなたはねずみでも、何にでもなることができる。ねずみであるあなたは、旅の中で熊やバファロオや鷲の持つ知恵に触れ合ってゆく。

そして『じゃんびんぐ・まうす』の旅を終えて、あなたは〈在る〉ことの不可思議を捉え、飛翔する。

そこにはどんな新たなヴィジョンが開かれてあることだろうか。（今、わたしたちに必要なのは存在の変容なのではなからうか、変化そのものになることだ。）

昔、大野一雄（舞踏家）さんから頂いた手紙に「御本（『じゃんびんぐ・まうす』）を御送り頂きこれ又感動の中で御本を離し得ない気持ちで読まして頂きました。私が胎児でその恩恵の中で生きている様なよろこびでした。三十人近い『けいこ』の中で、絵端書や御本そしてその中に描かれている『言』。言が『絵』となった」と。

『じゃんびんぐ・まうす』おおえまさのり訳画（経本装丁・函入り）は、わたしの企画する「いちえんそう」による、手作り製本の、自主出版です。月歴の正月（少し遅れるかも）には出版される予定です。以前のものより一割ほど小さめの可愛いプレゼント版になっています。

申し込みは、郵便振替「いちえんそう」00130-7-79316 定価 2000円＋税（2200円・送料無料）。そして同時にメールで必ず住所氏名を送信して下さい。メール singingstone4@ybb.ne.jp



『じゃんびんぐ・まうす』を手にしたのは5年ほど前。おおえさんから、インドを旅していた時に旅人から聞いた話を本にしたと聞いて、旅人が語り継いでいた物語ってどんな物語なのだろうと思ひ、どうしても欲しくなったのだ。お経本の装丁をした今まで見たこともない本を手渡されワクワクしながら頁を繰った。おおえさんが作る本は内容から印刷、装丁、製本すべてを考え抜いて作られた芸術品。引きこまれるように読んだ後、物語がまだ終わっていないような気がしてまた最初から読み始めた。なんども。なんども。思い出してはまた読んだ。そしてある時思ったんだ。わたしの「次の旅にでるためのジャンプ」は、この本を再び多くの人に届けることかもしれないって。

【仕様】判型 207mm×162mm 47頁 経本装丁 特色1色 函入り  
（本文はコットンが入った紙を使い初版本の活版印刷の風合いが活きています）

榎田屋 昭子